

# 開拓と整備の螺旋階段を 猛ダッシュで駆け上がるために②

こんにちは、高本です。

前回は「開拓」というテーマで、自分にとってのエネルギーの源泉の在りかを突き止めてそれを探求していく、という話をしました。そうすると途中でいろんな分かれ道があるわけですが、それは主人公感を高めて神視点を採用することで、面白そうな方向にどんどん逸脱していける、ということでした。

それを踏まえて今回は、その道を「整備」していくという内容です。開拓自体はエネルギーの源泉と直結した行為なので、止められてもやりたいたらうし、一生付き合っていくと言っても過言ではないぐらいのことだと思えます。

でもそれでは自分の中だけで完結することになります。**いくら没頭して満足できていても、自分を取り巻く環境全体で見ればエネルギーは滞っています。**

だから自分が切り開いた道を、誰かが後ろから付いてくれることに大きな意味があるわけです。それによって他者とのつながりが生まれ、周りも含めたエネルギーの循環が始まっていきます。

それが**あなたの情熱と社会が接点を持つ瞬間**で、前々回のレポートでいうところの「好きなことに社会性を持たせる」という話ですね。

というわけで、好き放題開拓してきた道をどうやって人が通れる道に整えていくか。つまり好きなことややりたいこと、エネルギーの源泉をいかに情報発信の形に落とし込んでいくか。

まずはどこから発信するという意識が芽生えるのか、というのを見ていきましょう。また、情報発信やブログにおいて「好きなことをテーマに！」とよく言われますが、後半ではこれについて多くの方が勘違いしがちな部分についても見ていきます。ここが分かれば**エネルギーの源泉と分離しない形で**発信していけるようになります。

それではいきましょう。

## 1. 「整備」と何か、そしてその目的とは 何か言いたい気持ちはどこから生まれるのか？

ピースの又吉氏が「小説は書き出しからではなく、その手前から書いていく」と言っていました。実際の始まりの数年前の物語が手元にあって、その途中を切り取って本の始まりにしているということです。僕たちはすでに動き始めている物語の途中から読み始めます。

音楽では、リズムのとり方は「パンパンパン」じゃなくて、円を描くようにリズムを感じるのがいった話があります。手が離れて戻ってくる時の一瞬の間がなく、常に滑らかに動いていることでノリやグルーブ感が生まれるというわけです。

今僕の目の前にあるコップでも、誰がどこでどうやって作ったかという時間の流れがあります。人からもらったものやハンドメイドの商品にも、そこに関わった人の流れがあります。そこに気づくとその価値は大きくなります。

0→1で急に目の前に現れたんじゃないでなくて、誰かが何かしらの思いをもって生み出したもの。さらに言えば、その人自身にもそれを作るに至った流れがあります。**背後には常に物語がある**んですね。

物事にはいつも流れや文脈があって、それを知るとより大きな意味を持つようになります。感動したりします。そんな風に「流れの中にいる」という意識を持つようになると、何かが目の前に現れたとき、自分の中に入ってきたとき、その流れをここで止めるのはおかしいってなるんですね。

伝統を受け継ぐ職人もそうですよね。「こんなに素晴らしい技術や作品や人の思いは、後世に受け継がれるべきだ」と思うから、それを継承していきます。歴史や伝統を学べば、現在まで引き継がれてきたその流れのとんでもない価値に気づき、守りたくなったりするものです。

つまり、自分がどんな流れにありどんな文脈で過ごしてきたか、そしてまさに今自分にどれだけのエネルギーが流れてきているのか気づけば、**その流れを止めず次へと送り出していくのが自然な流れ**だという考えに至る事だと思います。

**ここに伝達者の意識の芽生えがあります。好奇心のままに開拓した道やその過程で得たものを送り出していく、その流れに参加できるようにしていく。これを「整備」と捉えたいわけです。**

**流れを意識するというのは、目に見えないものを感じようとする事です。**何らかの体験で感情が高ぶったのであれば、それをエネルギーを受け取ったのだと解釈して、次は放出していく。

放出の形は会話でも歌でも絵でも文章でも映像でもいろいろありますが、これは見えないものをみえる形に変換する行為です。まずこれ自体が情報発信するうえでは大事な力の一つです。

そうやっていつもそこに何かを見出そうとしていけば、日常が面白くなってきますよね。だって**普通の人**がスルーするところに面白さを見出して形にして人に届けるってことだから

ら。流れを感じようとしていけば、感度を高めていけば、入ってくる情報が増えて面白がる  
ことができる量も増えていきます。

自然の美しさに触れて誰かに共有したくなる衝動も、こっちが勝手に感じ取って勝手に与え  
られたことにして、人に伝えたいという気持ちにまで昇華させるわけです。そういう能動的  
な行為って思ってやればいいんですね。こっちがそこから受け取ったと感じる感性がもう溢  
れんばかりにあるから、次への伝達が無事に起こっていくわけです。

## 誰かにとっての神話になるということ

「神話は、もしかしたら自分も完全な人間になれるかもしれないという可能性に気づかせて  
くれる。」（『神話の力』より）

開拓してきた道を整備するのは、誰かにとっての神話となるようにまとめていくことかもし  
れません。あなたの姿を見た人が、その物語に触れた人が、「自分もこんな風になりたい、  
なれるかもしれない」と夢見れるような、そんなものでありたいです。

最近ハンターハンターを見返してて、ちょっと思ったことがありました。主人公のゴンが、  
自分を置いて家を出ていった伝説のハンターである父親のジンを探しに行く、という物語な  
んですが、いろんな人との出会いと別れ、数々の強敵との戦いを経て、アニメの最終回で遂  
に gon はジンと再会を果たします。

そこでジンは、この先まだハンターとしての旅が続いていくであろうゴンに、最後にこんな  
ことを言っていたんですね。

「道草を楽しめ、大いにな。欲しいものより大切なものが、きっとそっちにころがって  
る。」

これ、僕の中で大事な感覚と結構近くて。そこで思い出したんですが、中学2年ぐらいの時  
にこの最終回を見て「うわ、なんかめっちゃいい生き方やん」って多分思ってたんですね。

ジンの生き方は作中では断片的にしか分からないんですが、でもこのメッセージの意味は視  
聴者にはよくわかります。アニメ全体を通してゴンの人生を追体験してる僕たちは、

「ジンに合うという目的そのものよりも、実はその過程でできた仲間や思い出のほうが大事  
だった」

って言いたいのだと、バチバチに伝わるわけです。もしかしたらこれが当時の僕にとっての  
神話になっていたのかもしれない。

でもこれはアニメだから、ゴンが自分でその物語を伝えていく必要はないんですね。富樫義  
博が全部整えてくれます。僕たちは創作の世界のキャラクターではないので、作者が見やす  
い物語にまとめてくれることはありません。自ら整備していく必要があります。

それは別に人に憧れられようとか自分を誇示するんじゃないで、ただ自分が辿ってきた道やそこで得たもの、見てきた景色を伝えて、その道を歩いてみたくなった人のために

「この橋結構ぐらぐらだから気を付けや〜」  
「こっちに迂回したほうが早く行けるで〜」

と、看板を立てかけておけばいいんですね。

この看板が情報発信においてはコンテンツになります。そして自分はまたどんどん先に進んでいけばいい。

人の悩みを解決するものを発信しないといけないって言われますが、別に誰でも言えるノウハウをきれいに整えて伝えても意味がないんですね。むやみやたらに吐き出しても仕方がない。

国道の標識みたいなもんです。誰もが利用する道の注意書きは国土交通省に任せておけばいい。**僕たちは自分が突き進んできた道だけ必死に整備すればいいんです。**だからそこに一貫したものが見えてきます。どんな道を進むための注意点やアドバイスなのか、ということがちゃんと伝わります。

情報発信において最初にコンセプトを考えるのは、

**「そのあなたが全力で進んできた道がどういうものか、ちゃんと自分で分かってますか」**  
という問いと向き合うってことなんですね。

「その道はどこに続いているんですか」  
「どんな困難が待ち受けているんですか」  
「どんな人がついて付いてきたくなるんですか」  
「どんな人は来るべきじゃないんですか」  
「どんな道具が必要なんですか」  
「どんな力が必要なんですか」  
「どうすれば身につけられるんですか」  
「どんな手助けをするつもりですか」

これがありありと分かっているからこそ、あなたの発信を必要とする特定の人に向けて価値を届けられるようになっていきます。

その上で、

「その注意書きでちゃんと伝わりますか」  
「その地図で無事に進んでいけますか」  
「もっと伝えねばならないことはないですか」  
「余計な情報与えてないですか」  
「逆に混乱させてないですか」

ということに気を配っていくわけです。

## 2. 情報発信のテーマ選びにまつわる勘違いとは？

ここまでで「整備」とは何か、そしてその目的は何か、という話をしてきました。ここからは、情報発信を始めようとしたときにありがちな勘違いについて見ていきます。

### どんな歯車になら、なりたいですか？

エネルギーを循環させていく活動の一つとしての情報発信ですが、そのために「誰に、どんな文脈で、何を伝えて、どうなってもらい、その結果世界はどうよくなるのか」これを徹底的に考えていくわけです。**あなたが社会に提供できる機能は何ですか**、という話です。

塾講師は、生徒に問題の解き方を教えるという形で、自らの機能を社会に提供します。僕たちはこの**提供する機能と、エネルギーの源泉や進んでいきたい方角を分離させないために、人生の軸というものを考えていた**わけです。

あなたの軸に沿った形で社会の歯車としてぐりんぐりん回っていきける、そんな歯車って何ですか？ということを考えたい。そしてその役割を果たすために、歯車を動かすモーターとしてネットを使って情報発信するわけです。誰が自分の話を聞きたいのか、必要としているのかもわからないまま、生身の人間に総当たりに語りかけていくのはしんどすぎますからね  
w

### **「英語が得意だからこれを発信します」は何がおかしいのか？**

そこで、じゃあ何を発信したらええねんとなるわけです。調べてみると「好きなことで、得意なことで」と言われます。まずそれが分からないんですが、無理やりひねり出して「んー、まあしいて言うなら英語かな」って思ったとします。

大体最初はそんな感じで考えていくと思います。でもそうすると、「自分より英語できる人はいくらでもいるしな」ってなりがちです。これは発信するときのテーマの考え方を少し勘違いしてるんですね。

情報発信は価値を提供するのが前提としてあります。でも得意なはずの英語で価値を届けられないかもしれない、とってしまうわけです。ここについては、メリットとベネフィットの違いを知っておけばいいんですね。

### 「ベネフィットを伝える」の本当の意味とは？

まず価値というのは悩みが解決されたり、パラダイムが変わって、それまでスルーしてたものが宝物に変わったりするところにあります。ここで、**メリットは「原因」でベネフィットは「結果」**って思うとわかりやすいです。人間はベネフィットにしか反応しないんですね。

例えば羽毛布団で考えてみると、「暖かい」のは機能の話であって、これはメリットです。じゃあ布団が暖かいことでその人はどうなるかというと、快眠できるわけです。快眠できるから健康に過ごせるようになります。ぐっすり眠れて疲れが取れて、それまでより日中を気持ちよく過ごせるようになります。これがベネフィットですね。

**「その個人に直接どんないいことがありますか」** っていうのがベネフィットで、その要因としての機能的な部分がメリットです。じゃあ英語が得意でそれを人に教える場合、受け手からすれば「英語ができるようになること」は、メリットに過ぎません。

**本当に問われているのは、「その結果として私はどうなれるんですか」「私にどんな嬉しいことがあるんですか」です。**

ここがベネフィットになります。

## **「あなた」が発信することに意味がある状態とは？**

ここまで考えると、ようやくあなたが英語の情報発信の意味が生まれてきます。そこにあなたのストーリーが入る余地が生まれてきます。

「こんな風に生きてきて、こんな経験をして、こんな思いで、こんな風に英語と向き合ってきた私だから、こんな形で言えることがある。だからそれを通してあなたはこんな風になることができます」

って言えるわけですね。そこに違いが出てきます。

「中学英語が分からないところからでもTOEIC900点取れるようになります」とか「英語を通してその国の文化を学ぶことで、別の視点を獲得できます」とか「単語や文法がぐちゃぐちゃでも、とりあえずコミュニケーションをとれるようになります」という話ですよ。

あなたは誰のどんな悩みを解決したり、誰がどんな風に変化することに貢献できますか？その方法として道具として、あなたの得意分野が存在してるわけです。

あなたがそれに関心を持ったり、時間を費やして人よりできるようになったり、これからもやっていきたかったりすることは、**それによってあなたの置かれている状況が大きく変わったり、もしくはそれと向き合わざるを得なくなった体験と結びついてる可能性が高いです。**

例えば、こんなストーリーが考えられます。

「初めて海外旅行に行ったとき、英語が分からなくて何も会話できなかった。その時心の底から英語をできるようになりたいと思った。でも学生時代から英語は全くダメで何の基礎もない。でもそんな自分でも会話できるようになるにはどうすればいいか、試行錯誤を積み重ねて何とか喋れるようになった。今でも文法はよくわからないけど、でも現地の人ととりあえずコミュニケーションをとれるようにする方法は伝えられる、だってそこだけに全力を注いできたから」

そんな風に考えるから、「このテーマをこの角度から話すことは自分にしかできない！」って思えたりするわけですよね。というか比較対象がないということなんです。

逆に、「英語で最低限のコミュニケーションは出来たけど、深い話や議論ができなくて深い仲になれなかったのがショックだった」って人であれば、向こうの人の考え方とか話題に選ばれがちなテーマを中心に学ぶ、というスタイルもあるかもしれないですよね。例えば宗教とか政治の話英語でできるように、とか。

そういう人は自分が勉強するときに苦労したはずなんですよね。「なんでこういうことに特化した本とかサイトないねん！！」みたいな。だから**自分でいろんな本を読んでいろんな人の話を聞いて、必要な部分だけをうまく拾ってきて組み合わせ、やっと外国人とコミュニケーションできるようになりました、**っていうのがあるはずですよ。

それが「あなたが英語で情報発信する意義」になってきます。**あなたが開拓してきた道はあなたにしか語れません。**

## 人生における「谷」が持つ価値とは？

そうすると、人生曲線で見たとときの「谷」が活きてきます。今見てきた人であれば、その谷の部分は確実に英語にまつわる体験と関係しています。外国に行ったものの、自分が望んでいた形の会話はできなかった。そんなショックや絶望感のピークになっているはずですよ。

だからこそ何とかもがいて今のところまでやってこれた。そんな物語があるから、そのスタイルで英語を発信するのはその人にしかできないってことになります。こう考えると、「英語が得意だから英語で発信します」がいかに粗い話か分かりますよね。

でもこれも検索して出てくるのは大体、「好きなことで、得意なことで発信しよう」ぐらいで終わってるので、なかなかそれが本当に意味することは分かりづらいわけです。いろんな角度から手を変え品を変え調べまくって、やっと「あ、そういうことか」って分かったりするものです。

これも僕の問題意識の一つとしてずっと「好きってなんやねん、得意ってなんやねん」っていうのがあったから、こんな話ができたりします。そういう**当事者としての経験があるから、届けるべき人に届くようになっていきます。**

そうすると辛い経験とかしんどい経験があっても、それは何か人の心を動かす隠し味的なものになってきます。表には出てこないし、食べても直接には効いてこないけど、でもその料理がおいしいものとして存在するための**絶対的な根拠**になります。

だから何か思い切ってやってみてそれが思い描いたようにならなくても、その体験と向き合う中で考えたことや克服したこと自体が、一つの面白いコンテンツになります。むしろ、**それ以降すべてのコンテンツの面白さや魅力を支える柱になっていきます。**

ちなみに、波のエネルギーは振幅の二乗で評価するんですね。例えばサイン関数をキリがいい範囲で普通に積分すると、山と谷の部分で打ち消しあって0になります。だからその波の強さやエネルギーを考えると、振幅を二乗してから計算します。

ということはプラスもマイナスも関係なくて、とにかく大きな揺れがいっぱいある方が、エネルギー的には強いんですね。

僕は人生の軸を考えると横軸に年齢、縦軸に充実具合をとってグラフを書く、というやり方を推してるんですが、これも波なのでエネルギーを概算しようと思えば、各年齢の充実度の二乗を全部足していけばいいわけです。

このエネルギーは自分の方に意識を向ければそれは日常における活力ですし、外に向ければ人に伝えたときのインパクトになってきます。いや伝えなくてもオーラとして醸し出されるものかも知れません。

**だからずっと±0みたいに生きてると、自分も乗ってこないし人にも魅力的に映らないのです。**そしてこれは情報発信においては致命的です。最後はコンテンツではなくて人間に興味を持ってもらうことができるか、ということになってくるからです。

## さっさと始めていきやしょう

まあ話それたんですけども、そんなところですよ。だからテーマとして「英語」っていうのは、機能的な話としてもまだちょっとピントずれてるのが分かると思います。

「宗教や政治を中心とした英語の発信をします」とか「中学生でもわかる英単語で会話する方法を発信します」とかになっていくと思います。そこからベネフィットの話につながっていきます。

もちろんそこにはその人の問題意識や一生向き合っていくようなテーマがあって、というか人生のコンセプト側から設定してきたから必然ですけど、**だからエネルギーが枯渇しなくてモチベーションの問題もなくなるし、自己成長と他者貢献が一致した形になります。**これが「分離していない」状態ですね。

もっと言えば、これもやってるうちに「こういうのは受けがいい」とか「気づいたらこんな話ばかりしてる」という感じで、自分の強みや優位性の輪郭がはっきりしてきます。だからとにかく**最低限の形を整えて、さっさと整備を始めていきたい**ということになります。

## 3. 最後に

というわけで今回は、開拓の話の続きとして「整備」についてみてきました。最後に、前回の分と合わせて振り返っておきます。

まず無限にエネルギーが湧いてくるポイントを見つけます。そしてその道を開拓していきます。そうすると途中でもっと面白いことが巻き起こりそうなわき道を発見するので、高い主人公感でそこに飛び込み、そうやって逸脱を繰り返していきます。

しばらくすればその中で体験したこと、考えてきたこと、手にしたものが溢れてくるので、それを後ろに続いてくる人のために整理していきます。そうやってあなたが受け取ったエネルギー、つまり情報や知識や体験や感情や人間関係の流れを止めることなく循環させていきます。そこに社会との接点が生まれます。

そうやってあなたから流れるエネルギーが世界に広がり伝わっていきます。まずはあなたの後ろを歩く人に伝わり、その家族、友人、同僚、上司、取引先、、、というように拡散していきます。

そうすれば、そのエネルギーを使ってこの世界はもっと面白く発展していきます。そしてそれがまたあなたに返ってきたとき、**新たな学びや出会いとともにあなたの探検の第2章が始まります。**

今あなたがどの段階にいるのか分からないですが、ぜひこんなパラダイムでやってみてください。一番おもしろいのでw

以上、「開拓と整備の螺旋階段を猛ダッシュで駆け上がるために」でした。

ここまでお読みいただきありがとうございました！  
質問や感想、その他何か言いたくてたまらないことなどあれば連絡ください。

高本